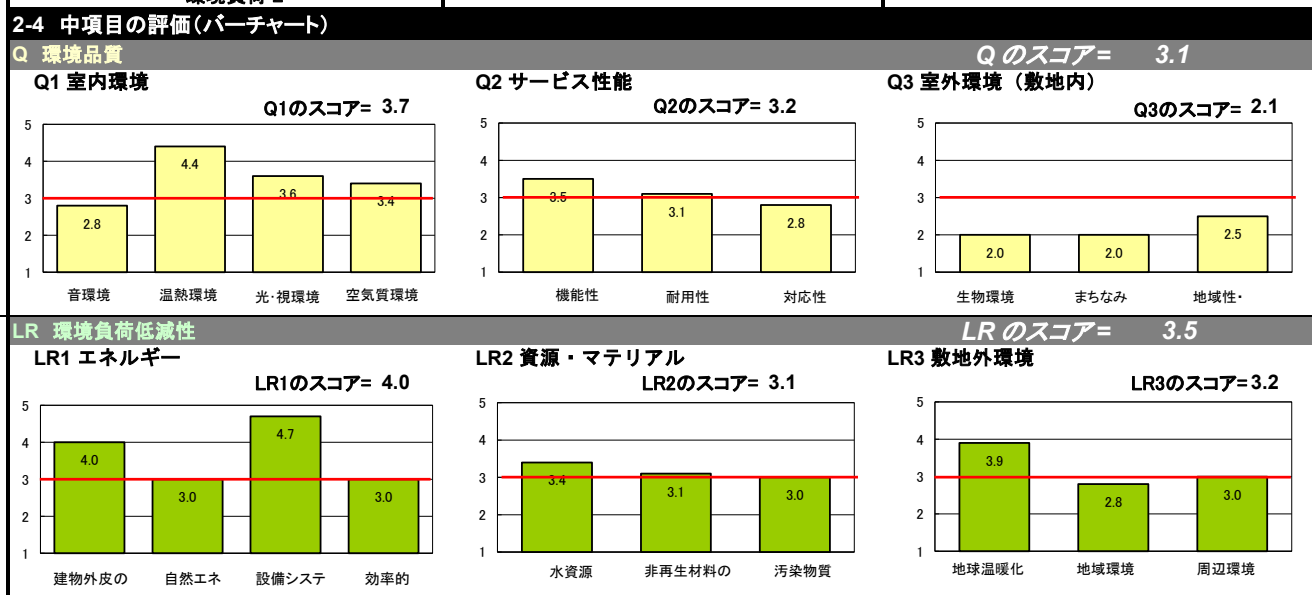
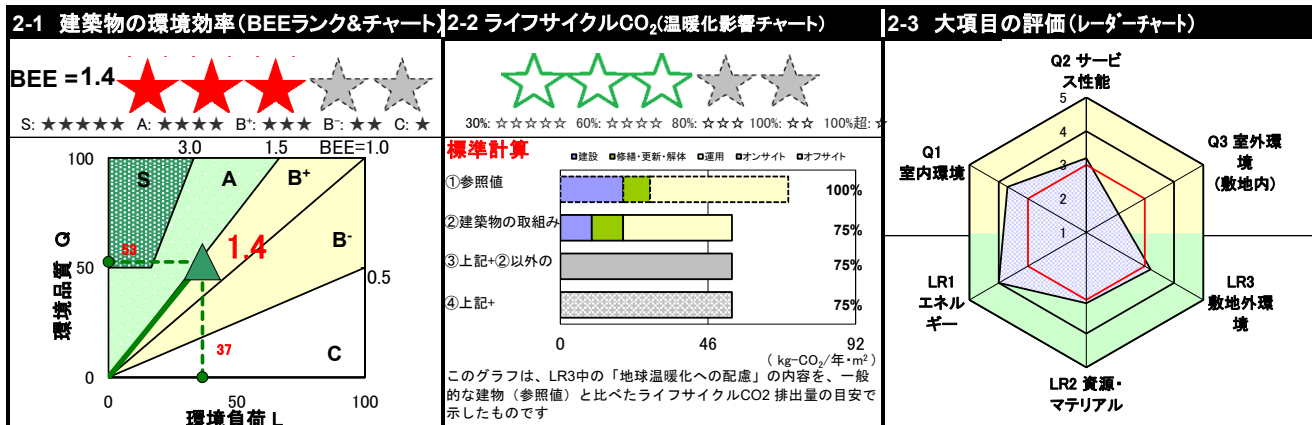




1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)都筑ふれあいの丘計画新築工事	階数	地上6F
建設地	横浜市都筑区大丸2番3	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、防火地域	平均居住人員	129 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年12月 予定	評価の実施日	2026年1月9日
敷地面積	953 m ²	作成者	株式会社 設計工房 イー・ディー
建築面積	638 m ²	確認日	2026年1月9日
延床面積	2,880 m ²	確認者	株式会社 設計工房 イー・ディー



3 設計上の配慮事項	
総合	その他
住居部分については、日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級5相当として省エネルギーに努め、室内環境や敷地内環境の向上に配慮した。節水水栓や機器、LGS工法を採用して、資源・マテリアルの保護にも考慮した。	特になし
Q1 室内環境 高昼光率を確保しつつ glare 制御も行い、建築基準法規制対象外となる建築材料をほぼ全面的に採用して室内環境の向上に努めている。	Q3 室外環境(敷地内) 可能な範囲で緑化に努め、外来種や自生種および野生小動物の生息域に配慮した計画としている。また植栽による良好な景観形成や防犯性にも配慮している。
LR1 エネルギー 住居部分については、日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級5相当とし、省エネルギーに努めている。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ を参照値より抑制し、風環境の把握等を行い、温熱環境悪化の改善に努めている。
Q2 サービス性能 各住戸にGbit/sの「プロ・バンド」が利用可能な環境が整備し、躯体や内装仕上げ等に耐用年数の長い材料を使用し、機械配管支持方法に耐震クラスAを採用して建物のサービス性能を向上させている。	
LR2 資源・マテリアル 節水に配慮した水栓や機器を採用し、部材再利用に配慮してLGS工法としている。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



4 横浜市重点項目についての環境配慮概要

<集合住宅>

受付日 2026年1月19日

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。

建物名称 (仮称)都筑ふれあいの丘計画新築工事

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving

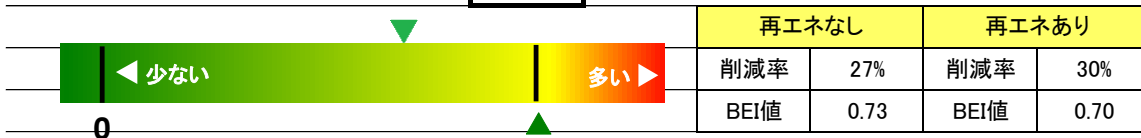
重点項目への取組(5点満点)

【省エネルギー性能】

4

■省エネルギー性能

この建物の設計一次エネルギー消費量 30 %削減



■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

①日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級」における等級4を超える性能

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community

重点項目への取組(5点満点)

【健康・安心】

4

■室内環境対策 (⑤外皮性能)

◆断熱等性能等級 等級4 (相当) ※複数の等級が混在する場合は最も低い等級とする。

■健康・安心対策 (⑥健康対策 ⑦防犯対策)

⑥適切な換気対策をおこなっている

■その他の対策 (⑧自然材料・通風の工夫など)

◆工夫の有無 なし

防災への配慮 (R) Resilience

重点項目への取組(5点満点)

【防 災】

3

■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)

⑯住宅の品質確保の促進に関する法律において等級2相当

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape

重点項目への取組(5点満点)

【地域・まちづくり】

2

■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)

太陽光発電などの導入



太陽光利用

環境配慮技術の導入

(太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)

エネルギーマネジメントシステム導入

— — —



CASBEE横浜2025年版v1.0

(仮称)都筑ふれあいの丘計画新築工事

バージョン

CASBEE横浜2025年版v1.0

スコアシート		重点項目		建物全体・共用部		住居・宿泊部分		全体
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質				-	-	-	-	3.1
Q1 室内環境				-	0.40	-	-	3.7
1 音環境				3.0	0.15	2.8	1.00	2.8
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.50	3.0	0.50	-
1.2 遮音				3.0	0.50	2.6	0.50	-
1 開口部遮音性能				3.0	1.00	3.0	0.30	-
2 界壁遮音性能				-	-	3.0	0.30	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	1.0	0.20	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	3.0	0.20	-
1.3 吸音				-	-	-	-	-
2 温熱環境				2.2	0.35	5.0	1.00	4.4
2.1 室温制御				2.2	0.50	5.0	1.00	-
1 室温		快適・働きやすさ	⑨温熱環境	3.0	0.63	-	-	-
2 外皮性能		快適・働きやすさ 健康・安心	⑨温熱環境 ⑤外皮性能	1.0	0.38	5.0	1.00	-
3 ゾーン別制御性		快適・働きやすさ	⑨温熱環境	-	-	-	-	-
2.2 湿度制御		快適・働きやすさ	⑨温熱環境	1.0	0.20	-	-	-
2.3 空調方式		快適・働きやすさ	⑨温熱環境	3.0	0.30	-	-	-
3 光・視環境				2.3	0.25	4.0	1.00	3.6
3.1 屋光利用				1.8	0.30	4.0	0.50	-
1 屋光率		快適・働きやすさ	⑩光環境	1.0	0.60	5.0	0.50	-
2 方位別開口		快適・働きやすさ	⑩光環境	-	-	3.0	0.30	-
3 屋光利用設備		快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	0.40	3.0	0.20	-
3.2 グレア対策				2.0	0.30	4.0	0.50	-
1 屋光制御		快適・働きやすさ	⑩光環境	2.0	1.00	4.0	1.00	-
3.3 照度		快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	0.15	-	-	-
3.4 照明制御		快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	0.25	-	-	-
4 空気質環境				3.6	0.25	3.3	1.00	3.4
4.1 発生源対策				4.0	0.60	4.0	0.63	-
1 化学汚染物質		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	4.0	1.00	4.0	1.00	-
4.2 換気				3.0	0.40	2.3	0.38	-
1 換気量		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	3.0	0.50	3.0	0.33	-
2 自然換気性能		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	-	-	1.0	0.33	-
3 取り入れ外気への配慮		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	3.0	0.50	3.0	0.33	-
4.3 運用管理				-	-	-	-	-
1 CO ₂ の監視		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	-	-	-	-	-
2 喫煙の制御		快適・働きやすさ	⑪空気質環境	-	-	-	-	-
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.2
1 機能性				2.4	0.40	3.8	1.00	3.5
1.1 機能性・使いやすさ				3.0	0.40	5.0	0.60	-
1 広さ・収納性		快適・働きやすさ	⑫機能性	-	-	-	-	-
2 高度情報通信設備対応		快適・働きやすさ	⑫機能性	-	-	5.0	1.00	-
3 バリアフリー計画		快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	1.00	-	-	-
1.2 心理性・快適性				1.0	0.30	2.0	0.40	-
1 広さ感・景観		快適・働きやすさ	⑫機能性	-	-	3.0	0.50	-
2 リフレッシュスペース		快適・働きやすさ	⑫機能性	-	-	-	-	-
3 内装計画		快適・働きやすさ	⑫機能性	1.0	1.00	1.0	0.50	-
1.3 維持管理				3.0	0.30	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計		快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	0.50	-	-	-
2 維持管理用機能の確保		快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	0.50	-	-	-
2 耐用性・信頼性				3.1	0.30	-	-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0	0.50	-	-	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		防災	⑬耐震・免震	3.0	0.80	-	-	-
2 免震・制震・制振性能		防災	⑬耐震・免震	3.0	0.20	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数				3.5	0.30	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数		防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	4.0	0.20	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	4.0	0.10	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.10	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	4.0	0.20	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔		防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	-	-	-
2.4 信頼性				3.0	0.20	-	-	-
1 空調・換気設備		防災	⑰信頼性	3.0	0.20	-	-	-
2 給排水・衛生設備		防災	⑰信頼性	3.0	0.20	-	-	-
3 電気設備		防災	⑰信頼性	3.0	0.20	-	-	-
4 機械・配管支持方法		防災	⑰信頼性	4.0	0.20	-	-	-
5 通信・情報設備		防災	⑰信頼性	2.0	0.20	-	-	-
3 対応性・更新性				3.0	0.30	2.8	1.00	2.8
3.1 空間のゆとり				-	-	2.6	0.50	-
1 階高のゆとり				-	-	3.0	0.60	-
2 空間の形状・自由さ				-	-	2.0	0.40	-

	3.2 荷重のゆとり		3.0	-	3.0	0.50	-
	3.3 設備の更新性		3.0	1.00	-	-	-
	1 空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	-
	2 給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	-
	3 電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	-
	4 通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	-
	5 設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	-
	6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	-
Q3	室外環境(敷地内)		-	0.30	-	-	2.1
1	生物環境の保全と創出	地域・まちづくり ⑩生物環境の保全と創出	2.0	0.30	-	-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮	地域・まちづくり ⑨まちなみ・景観への配慮	2.0	0.40	-	-	2.0
3	地域性・アメニティへの配慮		2.5	0.30	-	-	2.5
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上	地域・まちづくり ⑫地域性への配慮	2.0	0.50	-	-	-
	3.2 敷地内温熱環境の向上	快適・働きやすさ ⑭敷地内温熱環境の向上	3.0	0.50	-	-	-
LR	建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	3.5
LR1	エネルギー		-	0.40	-	-	4.0
1	建物外皮の熱負荷抑制	省エネルギー性能 ①建物の熱負荷抑制	4.0	0.20	-	-	4.0
2	自然エネルギー利用	省エネルギー性能 ②自然エネルギー利用	3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化		4.7	0.50	-	-	4.7
	集合住宅以外の評価	省エネルギー性能 ③設備システムの高効率化	-	-	-	-	-
	集合住宅の評価	省エネルギー性能 ③設備システムの高効率化	4.7	1.00	-	-	-
4	効率的運用		3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価		-	-	-	-	-
	4.1 モニタリング	省エネルギー性能 ④効率的運用	3.0	-	-	-	-
	4.2 運用管理体制	省エネルギー性能 ④効率的運用	-	-	-	-	-
	集合住宅の評価		3.0	1.00	-	-	-
	4.1 モニタリング	省エネルギー性能 ④効率的運用	3.0	0.50	-	-	-
	4.2 運用管理体制	省エネルギー性能 ④効率的運用	3.0	0.50	-	-	-
LR2	資源・マテリアル		-	0.30	-	-	3.1
1	水資源保護		3.4	0.20	-	-	3.4
	1.1 節水		4.0	0.40	-	-	-
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	-
	1 雨水利用システム導入の有無		3.0	1.00	-	-	-
	2 雑排水等利用システム導入の有無		-	-	-	-	-
2	非再生性資源の使用量削減		3.1	0.60	-	-	3.1
	2.1 材料使用量の削減		3.0	0.10	-	-	-
	2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	-
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	-
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	-
	2.5 持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10	-	-	-
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		4.0	0.20	-	-	-
3	汚染物質含有材料の使用回避		3.0	0.20	-	-	3.0
	3.1 有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	-	-
	3.2 フロン・ハロンの回避		3.0	0.70	-	-	-
	1 消火剤		-	-	-	-	-
	2 発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	-
	3 冷媒		3.0	0.50	-	-	-
LR3	敷地外環境		-	0.30	-	-	3.2
1	地球温暖化への配慮		3.9	0.33	-	-	3.9
2	地域環境への配慮		2.8	0.33	-	-	2.8
	2.1 大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	-
	2.2 温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	-
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		2.2	0.25	-	-	-
	1 雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	-
	2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	-
	3 交通負荷抑制		2.0	0.25	-	-	-
	4 廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	-
3	周辺環境への配慮		3.0	0.33	-	-	3.0
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	-
	1 騒音		3.0	0.33	-	-	-
	2 振動		3.0	0.33	-	-	-
	3 悪臭		3.0	0.33	-	-	-
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-	-
	1 風害の抑制		3.0	0.70	-	-	-
	2 砂塵の抑制		1.0	-	-	-	-
	3 日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	-
	3.3 光害の抑制		3.0	0.20	-	-	-
	1 屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	-
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	-
上記以外の重点項目				-	-	-	-
<事務用途>				-	-	-	-
	知的生産性向上への取組	快適・働きやすさ ⑬知的生産性向上への取組	-	-	-	-	-
<住宅用途>				-	-	-	-
健康と安心				-	-	-	-
	1 化学汚染物質の対策	健康・安心 ⑥健康対策	5.0	-	-	-	-
	2 適切な換気計画	健康・安心 ⑥健康対策	3.0	-	-	-	-
	3 結露・カビ対策	健康・安心 ⑥健康対策	3.0	-	-	-	-
	4 犯罪に備える(共用部の防犯対策)	健康・安心 ⑦防犯対策	4.0	-	-	-	-